

あいち産業科学技術総合センター
(Aichi Center for Industry and Science Technology)

令和 8 年度 事業計画書

内容

センターの紹介	1
1. 産学行政連携の推進	3
2. 研究開発の推進	3
3. 技術指導の充実	3
4. 依頼業務	4
5. 人材育成への支援	4
6. 技術開発、技術交流への支援	4
7. 情報の収集・発信	4
8. 科学技術の普及啓発	4
9. 職員の資質向上	4
10. 試験、研究用機器の更新整備	4
II 事業計画	5
1. 産学行政連携の推進	5
(1) 産学行政の連携による共同研究開発の推進	5
(2) 連携体制の構築・維持	6
2. 研究開発の推進	7
(1) 特別課題研究	7
(2) 経常研究	15
(3) 企業の提案による共同研究	20
(4) 新たな知的財産の創出、特許や技術の利活用	20
3. 技術指導の充実	21
(1) 重点研究プロジェクト成果活用プラザの設置と運用	21
(2) 高度な計測分析機器（シンクロトロン光含む）の活用	21
(3) トライアルコアの運用	21
(4) 釉薬テストピース・データベースの運用	22
(5) 産業競争力強化減税基金（「減税基金」）による支援	22
(6) 技術課題解決のための所内及び現場での技術相談・指導の実施	22
4. 依頼業務	23
(1) 製品・原材料の分析・試験等	23
(2) 機械器具類の貸付	23
(3) 会議室等の貸館	23
(4) 受託研究の実施	24
企業からの依頼により、受託研究を実施する。	24
5. 人材育成への支援	25
(1) 企業ニーズに応じた技術研修の実施	25
(2) 研修生の受入	25
(3) 業界団体と連携した研修の実施、講師派遣	25

6. 技術開発、技術交流への支援.....	26
7. 情報の収集・発信	27
(1) 講習会等の開催	27
(2) 研究報告、広報資料や展示会によるセンター活動の報告.....	27
8. 科学技術の普及啓発	29
9. 職員の資質向上	29
10. 試験、研究用機器の更新整備.....	30
Ⅲ 予算概要.....	31
1. 歳入.....	31
2. 歳出.....	32
Ⅳ 参考資料.....	33
1. 組織図及び定数	33
(1) 組織図	33
(2) 定数.....	33
2. 土地及び建物.....	33
(1) 土地.....	33
(2) 建物.....	34

センターの紹介

～産業・科学技術の創造から中小企業の技術支援まで総合的に支援～

【使命】

地域企業の持続的な発展のため、あいち産業科学技術総合センターは、「知の拠点あいち」において、産学行政の連携による共同研究の場の提供や、高度計測分析機器による分析評価など、「付加価値の高いモノづくり技術を支援する研究開発拠点」に向けて取り組みます。また、「産業技術センター」をはじめ県内各地の各技術センター・試験場を拠点として中小企業への総合的な技術支援を行います。

【沿革】

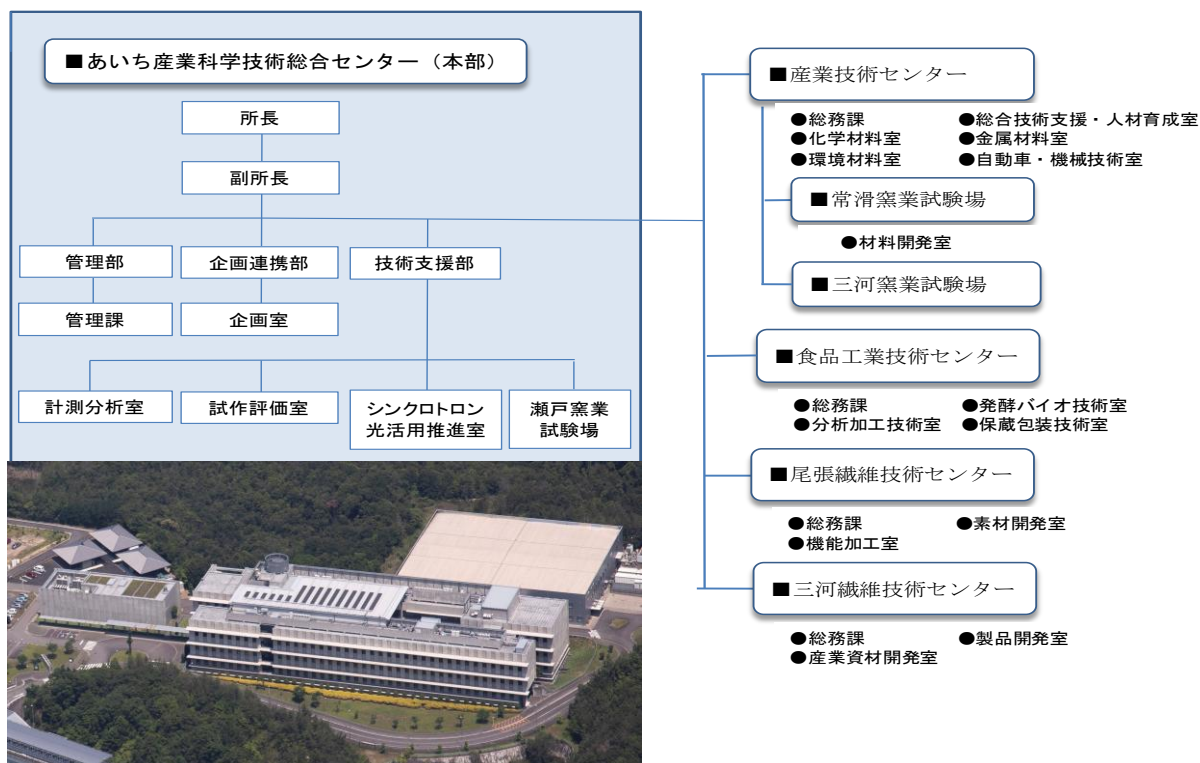
昭和 02 年 07 月	愛知県三河染織試験場（現 三河繊維技術センター）の設置
昭和 05 年 09 月	愛知県尾張染織試験場（現 尾張繊維技術センター）の設置
昭和 16 年 06 月	愛知県常滑陶磁器試験場（現 常滑窯業試験場）の設置
昭和 25 年 02 月	三河繊維技術センター豊橋分場の設置
昭和 26 年 03 月	愛知県工業指導所（現 産業技術センター）の設置
昭和 29 年 10 月	常滑窯業技術センター三河分場（現 三河窯業試験場）の設置
昭和 31 年 04 月	愛知県食品工業試験所（現 食品工業技術センター）の設置
昭和 46 年 02 月	愛知県瀬戸窯業技術センター（現 瀬戸窯業試験場）の設置
昭和 56 年 06 月	愛知県工業技術センター（現 産業技術センター）の設置（愛知県工業指導所の廃止）
平成 06 年 04 月	愛知県技術開発交流センターの設置
平成 08 年 10 月	愛知県知的所有権センターの設置
平成 14 年 04 月	愛知県産業技術研究所の設置（現 産業技術センターを本部とし、4センター及び3窯業試験場が統合された総称）
平成 24 年 01 月	あいち産業科学技術総合センターの設置（本部機能を愛知県産業技術研究所から移転）
平成 24 年 03 月	三河繊維技術センター豊橋分場の廃止
平成 30 年 04 月	産業技術センターのもとに常滑窯業試験場、三河窯業試験場、瀬戸窯業試験場を組織改編
令和 06 年 04 月	あいち産業科学技術総合センターのもとに瀬戸窯業試験場を組織改編し移転

【事業内容】

研究開発	大学等の研究シーズを企業の製品化へと橋渡しする産学行政連携による共同研究や、産業界における技術ニーズに対応した技術開発など、様々な研究開発を行い、その成果を地域産業界に広く普及することにより、企業の新技術・製品開発を支援します。
依頼試験 （計測分析・性能評価）	製品の品質管理、製品開発に役立てるため、企業の方からの依頼により、高度計測分析機器などを用いて、各種の材料・製品の試験、分析、測定などを行います。
試作・評価	CADシステム、三次元造形装置、シミュレーション装置のほか、基本的な工作装置を導入し、試作品の作製、評価を支援します。
技術相談・指導	製品開発における技術上の様々な問題について、研究員が相談・指導を行います。
技術情報の提供・人材育成	研究開発成果や新しい技術情報の普及を図るための講演会及び研究会を開催します。また、新製品・新技術を生み出す創造開発型の人材を育成します。

【組織図】

あいち産業科学技術総合センター



【所在地】

名称	所在地	電話番号／FAX URL
あいち産業科学技術総合センター (本部)	〒470-0356 豊田市八草町秋合 1267-1	0561-76-8301／0561-76-8304 https://www.aichi-inst.jp/
瀬戸窯業試験場	同上	0561-21-2116／0561-21-2128 https://www.aichi-inst.jp/seto/
産業技術センター	〒448-0013 刈谷市恩田町 1-157-1 <総務課> (自動音声案内) <総合技術支援・人材育成室> <化学材料室> 燃料電池 無機分析 高分子 <金属材料室> 金属加工 金属表面加工 <環境材料室> バイオ 物流技術 木材加工 <自動車・機械技術室> 機械技術 自動車	0566-24-1841／0566-22-8033 https://www.aichi-inst.jp/sangyou/ 0566-24-1841 0566-45-5640 0566-45-5641 0566-45-5642 0566-45-5643 0566-45-5644 0566-45-5645 0566-45-6901 0566-45-6902 0566-45-6903 0566-45-6904 0566-45-6905
常滑窯業試験場	〒479-0021 常滑市大曾町 4-50	0569-35-5151／0569-34-8196 https://www.aichi-inst.jp/tokoname/
三河窯業試験場	〒447-0861 碧南市六軒町 2-15	0566-41-0410／0566-43-2021 https://www.aichi-inst.jp/mikawa-yougyou/
食品工業技術センター	〒451-0083 名古屋市西区新福寺町 2-1-1	052-325-8091／052-532-5791 https://www.aichi-inst.jp/shokuhin/
尾張繊維技術センター	〒491-0931 一宮市大和町馬引字宮浦 35	0586-45-7871／0586-45-0509 https://www.aichi-inst.jp/owari/
三河繊維技術センター	〒443-0013 蒲郡市大塚町伊賀久保 109	0533-59-7146／0533-59-7176 https://www.aichi-inst.jp/mikawa/

I 運営方針

あいち産業科学技術総合センターでは、「知の拠点あいち」を核とした産学行政連携の共同研究開発の推進により、イノベーションの創出を促進し、既存産業の高度化と次世代産業の創出を図ります。また、地域企業の技術的な総合支援機関として、技術相談、依頼分析、研究開発、技術人材育成などの取組により、モノづくり産業の技術課題の解決策を提供し、愛知を支えている中小企業を支援します。

近年のデジタル技術の加速度的な進展や、産業部門への脱炭素化の要請といった、産業構造の急激な変化に加え、人手不足や原材料価格などの高騰も重なり、中小企業を始めとする県内企業の事業環境は大変厳しい状況にあります。こうした変化の大きい時代を乗り越え、地域企業の持続的な発展につなげていくため、当センターでは将来を見据えた新たな研究開発や日々直面する技術課題への対応などを通じて、本県モノづくり産業の振興に一層貢献していきます。

1. 産学行政連携の推進

「知の拠点あいち」において、大学等の研究成果を企業の事業化・製品化へと橋渡しする産学行政連携による「重点研究プロジェクト事業」の推進や、国プロジェクトをはじめとする各種応募型研究事業への応募・参加とともに、企業・大学と連携して先端技術開発のための共同研究に取り組み、付加価値の高いモノづくり技術の創造・発信を図る。

また、高度計測分析機器を活用し、産学行政共同研究プロジェクト及び企業における技術開発、製品開発を支援する。

2. 研究開発の推進

地域産業が抱える技術的課題解決に向けて、産業界の要請に対応して基礎研究として行う経常研究や応用研究として行う特別課題研究のほか、企業提案による共同研究を実施する。研究開発により付加価値の高い知的財産を創出し、権利化による保護、企業への技術移転を図る。

【産学行政連携や研究開発の推進】

R8 目標：応募型研究の実施件数 25 件

3. 技術指導の充実

中小企業における工程改善、品質管理、新製品開発、他分野展開等を支援するため、技術相談・指導を実施する。所内及び現場での技術相談・指導に加え、オンラインによる技術指導の充実を図る。さらに特定分野に関する支援拠点の設置・運用、産業競争力強化減税基金を原資とする研究開発補助金により支援を行う。

【技術指導の充実】

R8 目標：技術相談・指導件数 46,000 件

4. 依頼業務

企業からの依頼により、試験・分析の実施及び器具、会議室等の貸付を行い、品質管理及び製品開発の支援を行う。
また、企業からの依頼を受けて受託研究を実施する。

5. 人材育成への支援

中小企業の技術力向上、事業転換、新分野進出及び自社製品の市場化を支援するため、技術研修の実施、研修生の受入、講師派遣を行う。

6. 技術開発、技術交流への支援

技術情報交換、人的交流支援のため、研究会等の開催、講師及び審査員派遣を行う。

7. 情報の収集・発信

技術課題解決に資する情報提供のため、講習会開催や、研究報告の発行等により研究成果や技術情報を発信する。

8. 科学技術の普及啓発

将来の理系技術人材の醸成のため、こども科学教室や施設見学を開催し、モノづくりの基盤となる科学技術への興味・関心を促す。

9. 職員の資質向上

職員の資質向上を図るため、学会等へ職員を派遣し、各種研修へ参加するとともに、客員研究員から最新、先端技術の指導を実施する。

10. 試験、研究用機器の更新整備

当センターの機能維持強化のため、試験、研究用機器の更新整備を行う。

Ⅱ 事業計画

1. 産学行政連携の推進

(1) 産学行政の連携による共同研究開発の推進

① 重点研究プロジェクトの推進

愛知県の地域産業が抱える技術的課題の解決に向け、大学や企業等の研究シーズを活用する共同研究開発プロジェクトを推進する。

※重点研究プロジェクト（Ⅴ期）

■コンセプト：大学等のシーズを企業が製品化するための橋渡しとなる産学行政連携による共同研究開発

■期間：4ヶ年計画（令和7年度（2025年度）～令和10年度（2028年度））

■重点研究プロジェクトⅠ～Ⅳ期の取組を踏まえ、柔軟な研究枠の設定などの仕組み、DX関連技術の活用、産業分野の最適組合せにより、愛知の産業のグローバルな競争力強化とGX、SDGsへ貢献する目的で4分野を設定

① **マニファクチャリング**
【本県産業の基盤となる先進加工、制御技術、次世代モビリティ向けの革新材料等技術 等】

② **ヘルスケア**
【医療関係者・患者をサポートする医療・介護福祉技術 等】

③ **アグリ・フィッシュ**
【農作物の生産や漁業の収量拡大をめざすスマート技術 等】

④ **カーボンニュートラル**
【革新的材料・水素等を活用して脱炭素社会を実現する技術 等】



② 国プロジェクトや各種応募型研究事業への応募・参加

地域提案型の国プロジェクト等の産学行政連携研究プロジェクトへの応募と参加を行う。

<当センターが参画する研究プロジェクト>

・経済産業省 成長型中小企業等研究開発支援事業 (Go-Tech 事業) への参画

研究テーマ	研究機関
超臨界 CO2 ロボット加工システムによるフレキシブル生産の実現	・産業技術センター
機上工具成形技術を用いた高精度加工の実現による革新的金型製造技術の研究開発	・産業技術センター

※研究の概要は、特別課題研究（No. 6、No. 7）をご覧ください。

- ・国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO） 脱炭素社会実現に向けた省エネルギー技術の研究開発・社会実装促進プログラムへの参画

研究テーマ	研究機関
メソ孔を有するナノ径繊維状カーボンの実用化による高活性・高耐久性な燃料電池触媒開発	・三河繊維技術センター ・産業技術センター

※研究の概要は、特別課題研究（No. 16）をご覧ください。

- ・国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO） 長期海洋生分解性プラスチック評価技術開発事業への参画

研究テーマ	研究機関
微生物産生バイオポリマー系長期海洋生分解性繊維素材の研究開発	・三河繊維技術センター

※研究の概要は、特別課題研究（No. 18）をご覧ください。

（２）連携体制の構築・維持

① 広域的連携体制の構築・維持

中部地域公設試連携により導入した機器の活用を行う。

② 他公設試との連携

産議連連絡会議等への参加を通じて、他公設試験機関、研究機関、学協会等との人的交流と情報交換を積極的に進める。また、他公設試験機関等と連携して、モノづくり技術の創造・発信を図る。

③ 研究会による他機関の技術者との交流

センター主導の研究会の設置や提案をする。また、他機関が主導する研究会へ参加し、広く他機関の技術者との専門的な人的交流と情報交換を進める。

2. 研究開発の推進

研究業務は、特別課題研究と経常研究の二つに区分し、中小企業の抱える技術的課題解決のための基礎的な研究に加え、新たに地域において重点的に取り組む戦略的振興分野に関する研究を行う。

※応募型研究開発推進事業には年度当初実施見込み分のみ計上（年度途中からの新規提案分は含まない）。

（1）特別課題研究

＜特別課題研究一覧（産業界の要請に対応して取り組む共同研究や応用研究）＞

No	研究テーマ	研究機関
1	シンクロトロン光利用案件組成研究 （陶磁器の鉄化学状態と色の関係性の検討）	本部（技術支援部） 常滑窯業試験場
2	シンクロトロン光利用案件組成研究 （CO ₂ メタネーション触媒のシンクロトロン光分析）	本部（技術支援部） 産業技術センター
3	人協働型セラミックス自動実験システム構築と電池材料探索プロトコル開発	本部（技術支援部） 産業技術センター
4	セラミックス用バインダーの高度化に関する研究	瀬戸窯業試験場 本部（技術支援部）
5	アルミニウムの表面改質に関する研究	産業技術センター
6	超臨界 CO ₂ ロボット加工システムによるフレキシブル生産の実現	産業技術センター
7	機上工具成形技術を用いた高精度加工の実現による革新的金型製造技術の研究開発	産業技術センター
8	次世代自動車の熱マネージメント革新／省エネ・小型・静音熱輸送デバイスの事業化	産業技術センター
9	工作機械・機器の破壊的革新による大型部品製造の省エネ・省スペース・省人化	産業技術センター
10	水素工業炉の利用促進に関する研究	常滑窯業試験場 本部（技術支援部）
11	溜醤油醸造用乳酸菌スターターの濃口醤油醸造における効果の明確化	食品工業技術センター
12	あいちの次世代型発酵を目指した醸造用微生物の育種開発と社会実装	食品工業技術センター 本部（技術支援部）
13	養殖魚の感染疾病における早期診断・感染防止技術の開発	食品工業技術センター
14	スペシャリティ酵素を用いた本格的腸活・機能性ノンアルコールビール製造への挑戦	食品工業技術センター
15	摩擦発電テキスタイルに関する研究開発	尾張繊維技術センター
16	メソ孔を有するナノ径繊維状カーボンの実用化による高活性・高耐久な燃料電池触媒開発	三河繊維技術センター 産業技術センター
17	環境に配慮した電界紡糸法の検討	三河繊維技術センター
18	微生物産生バイオポリマー系長期海洋生分解性繊維素材の研究開発	三河繊維技術センター
19	伸縮性と形状記憶性を有する多機能複合素材の医療機器への応用研究開発	三河繊維技術センター

シンクロトロン光利用案件組成研究（1/1） 陶磁器の鉄化学状態と色の関係性の検討（1/1）		No. 1
研究機関	本部（技術支援部） 常滑窯業試験場	
研究の概要	研究の内容	陶磁器は、材料、焼成条件等の違いにより様々な色に変化する。この変化は含まれる鉄の化学状態の違いによるものだといわれているものの、望む色を出すための条件は最終的には手探りで探す必要がある。そこで、原料濃度や焼成雰囲気、温度、炉内の充填率等の条件を変更した種々のタイル状試料を用意し、色差計の数値と鉄の硬X線 XAFS で得られる化学状態を評価することで、鉄の状態の色への影響を検討する。
	研究の目標	原材料及び焼成条件が鉄の化学状態に与える影響を検討し、色の情報と結びつけることで、発色と化学状態及び製造条件の間にある関係を明らかにする。これを水素炉での焼成に展開することで、水素炉を用いたものづくりにおいて、望む色が得られる条件を迅速に決められるようにする。
	備考	〔県〕シンクロトロン光利用案件組成研究開発活動費

シンクロトロン光利用案件組成研究（1/1） CO2 メタネーション触媒のシンクロトロン光分析（1/1）		No. 2
研究機関	本部（技術支援部） 産業技術センター	
研究の概要	研究の内容	数種の担体で担持させた触媒を用いて、メタネーション反応時の触媒および担体の XAFS 測定を実施し、化学状態や構造の変化について調査を行う。さらに、XRD 測定や BET 比表面積、水素-昇温還元スペクトル測定、X 線 CT 観察を実施し、触媒性能について包括的な分析や相関関係の調査を行う。
	研究の目標	メタネーション反応のダイナミクスを明らかにし、触媒活性の向上や劣化抑制の指針を得ることを目標とする。さらにシンクロトロン光が触媒反応のその場観察に有用であることを示す。
	備考	〔県〕シンクロトロン光利用案件組成研究開発活動費

人協働型セラミックス自動実験システム構築と電池材料探索プロトコル開発（2/4） 人協働型セラミックス自動実験システム構築と電池材料探索プロトコル開発（2/4）		No. 3
研究機関	本部（技術支援部） 産業技術センター	
研究の概要	研究の内容	愛知県内の電池関連製造企業の研究開発を加速および支援するため、①粉体原料を用いた酸化物電池材料の自動合成システムの構築、②電池材料の電気化学特性および構造評価の高速化技術、③AI によるデータのインフォマティクス解析とプロセス自律化技術の確立に取り組む。
	研究の目標	全固体電池材料の高速開発を実現するため、セラミックス材料の合成から電気化学的評価、結晶構造解析を自動化するメカノケミカル自動実験システムと AI 解析を統合した自律探索プロトコルを確立し、材料探索の効率化と精度向上が可能となる一貫通貫の共用研究基盤を整備する。
	備考	〔（公財）科学技術交流財団〕知の拠点あいち重点研究プロジェクト（V期）

セラミックス用バインダーの高度化に関する研究（1/2）		No. 4
脱脂工程の改善に向けたセラミックス用バインダーの研究（1/1）		
研究機関		瀬戸窯業試験場 本部（技術支援部）
研究の概要	研究の内容	ファインセラミックス製造の脱脂工程における悪臭の発生やエネルギーの大量消費への対策、また、セラミックス製品の用途拡大のため、バインダーに関する研究を行う。セラミックス用バインダーについて、示差熱・熱重量分析(TG-DTA)やガスクロマトグラフィー、質量分析、異臭分析を実施し、熱分解挙動や分解時の臭気の原因を解明する。バインダー単体および成形体について分析を行う。
	研究の目標	既存のバインダー3種類について、脱脂工程における臭気の原因物質、臭気の発生する温度を特定し、熱分解挙動を把握する。
	備考	〔県〕 あいち産業科学技術総合センター管理運営事業費

アルミニウムの表面改質に関する研究（1/2）		No. 5
二次電解処理による陽極酸化皮膜への機能性付与（1/1）		
研究機関		産業技術センター
研究の概要	研究の内容	アルマイト皮膜は高摩擦なため、従来の PTFE 処理では過酷な環境下での剥離が課題である。本研究では、皮膜の微細孔内に軟質金属を電解析出させ、皮膜内部から自己潤滑性を付与する。金属の析出状態と摺動特性の関係を解明するとともに、腐食促進試験を通じて、異種金属の充填が耐食性に及ぼす影響を評価し、摺動性と耐久性が両立する条件を模索する。
	研究の目標	摩耗が進行しても潤滑効果が持続する高耐久自己潤滑皮膜の実現と、摺動性と耐食性を両立する最適条件の特定を目標とする。本技術の確立により、過酷な摺動環境下にある機械部品の長寿命化・高信頼化を目指す。
	備考	〔県〕 あいち産業科学技術総合センター管理運営事業費

超臨界 CO2 ロボット加工システムによるフレキシブル生産の実現（2/3）			No. 6
超臨界 CO2 ロボット加工システムによるフレキシブル生産の実現（2/3）			
研究機関		産業技術センター	
研究の概要	研究の内容	マシニングセンタを用いた加工試験を行い、超臨界状態のCO2（SCD）技術の効果を確認し、従来の冷却・潤滑方式と比較して SCD 技術の有効性を評価し、開発するロボット加工システムの加工条件選定を行うためにフィードバックする。	
	研究の目標	ロボットによる安定した加工を実現するため、SCD 技術を適応したワークと工具の温度を最適に保つ冷却方法を確立する。	
	備考	〔経済産業省〕 成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech）	

機上工具成形技術を用いた高精度加工の実現による革新的金型製造技術の研究開発 (2/3)		No. 7
機上工具成形技術を用いた高精度加工の実現による革新的金型製造技術の研究開発 (2/3)		
研究機関	産業技術センター	
研究の概要	研究の内容	焼入れ鋼などが使用される硬質な金型材料の切削加工において、大きな工具摩耗、低速加工によるコストや工期の増加、寸法・形状精度の低下が課題となっている。そこで、本研究開発ではパルスレーザーを用いた刃先成形技術である PLG に着目し、高精密加工機上に搭載可能な耐環境性に優れた密封式 PLG 光学ヘッドの開発を行うとともに、それらを用いた金型加工技術について検証する。
	研究の目標	既存の PLG 装置を用いて切削工具の刃先を研磨した工具を製作し、ステンレス系金型材料である STAVAX の加工条件について検証することで加工条件の最適化を図り、Ra0.1 μ m 以下の仕上げ面粗さ、4000mm あたり 3 μ m 以下の平面度を実現する。
	備考	〔経済産業省〕成長型中小企業等研究開発支援事業 (Go-Tech)

次世代自動車の熱マネジメント革新／省エネ・小型・静音熱輸送デバイスの事業化 (2/4)		No. 8
次世代自動車の熱マネジメント革新／省エネ・小型・静音熱輸送デバイスの事業化 (2/4)		
研究機関	産業技術センター	
研究の概要	研究の内容	電動自動車の普及により高度化する熱マネジメント要求に対し、従来の遠心ポンプでは両立困難な高効率・小型・静音性を実現するため、産業用途で実績のあるスクリーポンプを世界で初めて車載量産用途へ展開する研究である。トライボ CAE を活用した潤滑・摩耗抑制設計と、短タクト・高信頼な生産プロセスの確立により、量産可能なスクリーポンプの設計・製造体制を構築する。
	研究の目標	スクリーポンプの車載向け量産体制を確立し、従来の遠心ポンプ比でサイズ 50%削減、静粛性 8dB 向上、効率 50%向上を達成する。2029 年 3 月までに量産実証を完了し、次世代電動車の統合熱マネジメントを支える中核デバイスとしての実用化を目指す。
	備考	〔(公財) 科学技術交流財団〕知の拠点あいち重点研究プロジェクト (V 期)

工作機械・機器の破壊的革新による大型部品製造の省エネ・省スペース・省人化 (2/2)		No. 9
工作機械・機器の破壊的革新による大型部品製造の省エネ・省スペース・省人化 (2/2)		
研究機関	産業技術センター	
研究の概要	研究の内容	航空機部品をはじめとする大型部品加工では、大型工作機械による膨大なエネルギー消費や占有スペース、加工能率の低さが課題となっている。加えて、加工時の応力解放に伴うミリ単位の変形が精度を低下させており、その修正を熟練技能者の手作業に依存している現状から、自動化・省人化が急務である。本研究は、工作機械の概念を革新することで、大型部品製造における省エネ・省スペース・省人化の実現を目指す。
	研究の目標	省エネ・省スペース化を両立し、従来と同等以上の加工精度と加工能率を達成する工作機械技術 (Multi-Compact Machines) や、熟練技能の属人性を排した自動化による省人化と、高精度を両立する工作機器技術 (Smart Tooling/Jig) を開発する。
	備考	〔(公財) 科学技術交流財団〕知の拠点あいち重点研究プロジェクト (V 期)

水素工業炉の利用促進に関する研究（1/3）		No. 10
水素工業炉を用いた脱脂工程に関する研究（1/1）		
研究機関		常滑窯業試験場 本部（技術支援部）
研究の概要	研究の内容	常滑窯業試験場に設置された水素工業炉で脱脂試験を行い、脱脂処理時間を短縮できる条件を見出す。水素工業炉での脱脂工程では臭気が強くなることが指摘されており、感覚的な知見を数値化することをはじめとして、臭気低減策等について研究を行う。
	研究の目標	水素工業炉を用いて、セラミックスの脱脂工程における短所・長所を明確にして、水素工業炉を用いた最適な脱脂工程を見出す。
	備考	[県]水素・アンモニア工業炉推進事業費

溜醤油醸造用乳酸菌スターターの濃口醤油醸造における効果の明確化（1/1）			No. 11
溜醤油醸造用乳酸菌スターターの濃口醤油醸造における効果の明確化（1/1）			
研究機関		食品工業技術センター	
研究の概要	研究の内容	醤油業界では、優れた醸造特性を有する <i>T. halophilus</i> をスターターとして添加し、アミン生成を抑制する取り組みが進んでいる。一方で、製造現場ではファージ発生が問題となっており、対策としてファージ感受性が異なる複数菌株をローテーションで使用方法が有効である。当センターでは、本県特産の溜醤油に有効な菌株を複数分離してきた。本研究では、これらの菌株について濃口醤油における効果を明確にする。	
	研究の目標	溜醤油に加え、出荷量が最も多い濃口醤油の醸造において、以下の性質を有する <i>T. halophilus</i> を 10 株以上取得する。①アミンを生成しない②シトルリンを生成しない③アミンを EU の推奨値である 200ppm 以下に低減できる④pH の過度な低下を招かない⑤窒素分の大きな減少を招かない⑥ファージ感受性が異なる。	
	備考	〔県〕 あいち産業科学技術総合センター管理運営事業費	

あいちの次世代型発酵を目指した醸造用微生物の育種開発と社会実装（2/2）		No. 12
あいちの次世代型発酵を目指した醸造用微生物の育種開発と社会実装（2/2）		
研究機関	食品工業技術センター 本部（技術支援部）	
研究の概要	研究の内容	低精白米を用いても吟醸香を産生する清酒酵母新株の育種のために、前年度に取得した複数の候補株に対して小仕込試験評価により醸造特性評価を行い、有用株を確立する。また、オフフレーバーを低減した野生酵母新株の育種のために、候補株の発酵試験を実施し、オフフレーバーが低減した新株を選抜する。また多数の銘柄清酒の網羅的分析、官能検査より、主成分分析や深層学習などによる新しい評価系を構築する。
	研究の目標	清酒酵母では小仕込試験評価により、精米歩合 7 割でも変異導入前の株の精米歩合 5 割と吟醸香生産が同等な有用株を確立する。野生酵母では変異導入前の株と比較して、オフフレーバーが 50%以下になっている有用株を確立する。また、構築した評価系を図解することにより、新規酒質評価図を完成する。
	備考	〔(公財) 科学技術交流財団] 知の拠点あいち重点研究プロジェクト（Ⅴ期）

養殖魚の感染疾病における早期診断・感染防止技術の開発 (2/2)		No. 13
養殖魚の感染疾病における早期診断・感染防止技術の開発 (2/2)		
研究機関	食品工業技術センター	
研究の概要	研究の内容	本県の主要な水産業の一つであるウナギの養殖では、エドワジエラ菌の感染によるパラコロ病の被害割合が高く、年間約50万尾相当のウナギが被害を受けている。現状では、魚病の発生から原因の特定までに数日を要し、その間に病気が蔓延するケースもある。そこで、本研究ではこうした課題への対応として、現場で簡易・迅速にエドワジエラ菌の菌数変化をモニタリングできる測定装置の開発を行う。
	研究の目標	微生物が鉄イオンを取り込むために産出するシデロフォアの機能を模倣した「人工シデロフォア技術」をベースに、エドワジエラ菌数モニタリングに特化した人工シデロフォア分子のスクリーニング、およびそれを利用したエドワジエラ菌数モニタリング技術・装置の開発を行う。
	備考	〔(公財) 科学技術交流財団〕 知の拠点あいち重点研究プロジェクト (V期)

スペシャリティ酵素を用いた本格的腸活・機能性ノンアルコールビール製造への挑戦 (1/3)		No. 14
スペシャリティ酵素を用いた本格的腸活・機能性ノンアルコールビール製造への挑戦 (1/3)		
研究機関	食品工業技術センター	
研究の概要	研究の内容	スペシャリティ酵素を麦芽の糖化工程に適用し、発酵性糖を非発酵性オリゴ糖へ転換するという新規バイオプロセスにより、設備投資を要せずにアルコール生成そのものを抑制したノンアルコールビール製造法を開発する。
	研究の目標	ミュンヘン工科大学の高度なビール醸造技術と融合することで、0%かつ整腸機能と本格的な風味を両立した機能性ノンアルコールビールの製法の実現に取り組む。本技術は中小のクラフトビール醸造所でも実装可能であり、愛知県の発酵食品産業の高度化と健康志向市場の創出に大きく貢献することを目指す。
	備考	〔(公財) 科学技術交流財団〕 知の拠点あいち重点研究プロジェクトV期(国際枠)

摩擦発電テキスタイルに関する研究開発 (2/2)		No. 15
摩擦発電テキスタイルの安定性評価 (1/1)		
研究機関	尾張繊維技術センター	
研究の概要	研究の内容	摩擦帯電型ナノ発電 (TEENG) は摩擦によって生じる静電気を使って発電する技術であり、人が日常的に身に着けているテキスタイルに TEENG の機能を持たせることができれば、日常の動作によって生じる摩擦からウェアラブルデバイスの電源を取り出すことが可能となるものと期待される。本研究ではこれまでに開発した TEENG テキスタイルに対して、実用環境における発電性能の安定性を評価する。
	研究の目標	テキスタイルの素材や構造が発電性能の湿度依存性、繰り返し耐久性、洗濯耐久性などに与える影響を明らかにするとともに、安定して電力を発生させるためのテキスタイル構造を見出す。洗濯10回もしくは繰り返し動作1万回後に80%以上の発電特性を保つことを目標とする。
	備考	〔県〕 あいち産業科学技術総合センター管理運営事業費

メソ孔を有するナノ径繊維状カーボンの実用化による高活性・高耐久な燃料電池触媒開発 (2/5)		No. 16
メソ孔を有するナノ径繊維状カーボンの実用化による高活性・高耐久な燃料電池触媒開発 (2/5)		
研究機関	三河繊維技術センター 産業技術センター	
研究の概要	研究の内容	(国研) 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の燃料電池開発ロードマップにおいて、燃料電池触媒の性能目標値が提示されているが、既存触媒では耐久後に性能が大きく低下するため、目標達成が困難である。本研究の繊維状触媒は耐久後でも耐久性が高い傾向があり、初期性能も既存と同等レベルである。本研究では繊維状触媒の実用化に向けた触媒物性の最適化や製造工程のスケールアップの検討などを行う。
	研究の目標	耐久性が既存触媒の3倍以上である繊維状触媒を実用化し、高耐久・高活性な燃料電池触媒を開発することで国内外の省エネルギー及び脱炭素社会の実現を目指す。
	備考	[(国研) 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)] 脱炭素社会実現に向けた省エネルギー技術の研究開発・社会実装促進プログラム

環境に配慮した電界紡糸法の検討 (2/3)		No. 17
紫外線硬化樹脂を用いたナノファイバーの作製技術向上 (1/1)		
研究機関	三河繊維技術センター	
研究の概要	研究の内容	前年度に得られた知見から紫外線硬化樹脂によるナノファイバー作製技術の最適化を目的とする。紫外線硬化樹脂の成分（主成分となるモノマーもしくはオリゴマー、開始剤他）の調整を主体として光源の配置や、電界紡糸の印可電圧、針とターゲット距離などの各種作製条件と、紫外線硬化樹脂から得ることができるナノファイバーの状態との関連性を把握し、最適な条件を模索する。
	研究の目標	高環境負荷な溶媒を用いずに、電界紡糸法で、繊維径1μm以下の糸を得る。 電界紡糸法でシート状のナノファイバーを作製する。 紡糸の条件と紡糸の可否および繊維径との関連性を把握する。
	備考	[県] あいち産業科学技術総合センター管理運営事業費

微生物産生バイオポリマー系長期海洋生分解性繊維素材の研究開発 (2/5)		No. 18
微生物産生バイオポリマー系長期海洋生分解性繊維素材の研究開発 (2/5)		
研究機関／担当者	三河繊維技術センター	
研究の概要	研究の内容	国内外で廃プラスチックによる新たな海洋ごみの削減が求められ、2040年までに新たな海洋プラスチックごみをゼロにする目標が示されている。この実現のためには、回収できずに海洋に放出されるプラスチックの代替素材の開発と普及がより重要である。本研究では再生可能資源から微生物発酵によって生産可能なプラスチックを用いた長期海洋生分解性繊維素材を開発することを目指す。
	研究の目標	製品として求められる耐久性を有し、数年以上使用した製品が環境流出した場合、長期間かけても確実に生分解する繊維素材を開発する。また、これら素材を利用して評価手法開発へのフィードバックを行う。
	備考	[(国研) 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)] (国研) 産業技術総合研究所からの再委託) 長期海洋生分解性プラスチック評価技術開発事業

伸縮性と形状記憶性を有する多機能複合素材の医療機器への応用研究開発 (2/2)		No. 19
伸縮性と形状記憶性を有する多機能複合素材の医療機器への応用研究開発 (2/2)		
研究機関	三河繊維技術センター	
研究の概要	研究の内容	形状記憶合金（SMA）や繊維強化樹脂（FRP）に新たなパターンの加工を施し、素材の特性に加え、大きな伸縮性・曲げ変形と体への自由なフィット性能を持つより高機能なプレートを開発する。これらの特性により、骨の固定や保護、関節の保護、筋力補助などの医療用途への実用化を目指す。
	研究の目標	SMA と FRP に新たなパターン加工を施し、素材の持つ頑丈さ・軽量性に加えて大きな伸縮性・曲げ変形と体への自由なフィット性能を併せ持つプレートを開発する。医療現場からのニーズに応える設計技術・製造加工技術により、伸縮率 15%を満たすプレート試作を目指す。
	備考	〔(公財) 科学技術交流財団〕 知の拠点あいち重点研究プロジェクト（Ⅴ期）

(2) 経常研究

<経常研究一覧 (各産業分野の技術支援のため、当面する課題に取り組む研究)>

No	研究テーマ	研究機関
1	CFRTP 射出成形品の寸法・表面品質に及ぼす成形条件の影響	本部(技術支援部) 産業技術センター 三河繊維技術センター
2	有機材料の断面分析技術の確立	本部(技術支援部)
3	3D プリンタにおける造形精度の向上に関する研究	本部(技術支援部)
4	中山間部害獣駆除に伴う廃棄物の陶磁器への利用の検討	瀬戸窯業試験場
5	マグネシウム合金の分析方法の検討	産業技術センター
6	脱炭素社会に向けた廃プラスチック資源の高度化に関する研究	産業技術センター
7	金属加工における AI 活用に関する研究	産業技術センター
8	化学的エッチングによる金属表面への微細テクスチャの創成と活用に関する研究	産業技術センター
9	紙の高付加価値化技術の開発	産業技術センター
10	パルプモールドの新規処理法の開発	産業技術センター
11	常温硬化樹脂の塗布処理による軟質針葉樹の表層硬質化	産業技術センター
12	表層防火処理による国産針葉樹材の不燃化	産業技術センター
13	自重補償ロボットシステムにおける慣性抑制とデジタルツイン活用の検討	産業技術センター
14	機械学習による異常検知技術の製造業における時系列データへの適用に関する研究	産業技術センター
15	瓦用原料の調査研究	三河窯業試験場
16	画像による食品中の異物判別システムの検討	食品工業技術センター
17	米麴甘酒を用いたいろいろの評価	食品工業技術センター
18	でんぷん分解性乳酸菌による小豆の共発酵	食品工業技術センター
19	サステナビリティを考慮したモノづくりの推進	尾張繊維技術センター
20	繊維製品の光退色抑制技術の開発	尾張繊維技術センター
21	繊維製品の欠陥検出 AI の精度向上及び推論機構の軽量化に関する研究	尾張繊維技術センター
22	環境負荷低減に向けた染色加工におけるファインバブルの応用	三河繊維技術センター
23	高速引張試験機を使用した衝撃特性評価	三河繊維技術センター

CFRTP 射出成形品の寸法・表面品質に及ぼす成形条件の影響 (2/2) 機械学習を用いた射出成形条件の最適化 (1/1)		No. 1
研究機関	本部（技術支援部） 産業技術センター 三河繊維技術センター	
研究の概要	CFRTP 射出成形は、炭素繊維の存在に起因した寸法不良や光沢不良を発生することがある。これらの不良は、成形条件の調整により改善することがあるが、両方同時に改善することは難しい。本研究では、成形条件を入力値、寸法および光沢度を出力値とする機械学習モデルを構築する。構築したモデルにより、両品質特性を同時に向上させる成形条件を予測し、試作およびモデルの検証を行うことで、成形条件最適化を目指す。	

有機材料の断面分析技術の確立 (1/2) 有機材料の断面作製手法の検討 (1/1)		No. 2
研究機関	本部（技術支援部）	
研究の概要	樹脂製品は高機能化に伴い薄膜化や多層化が進んでおり、表面から内部に至る情報（元素組成、化学構造等）の取得は重要である。しかし樹脂製品は変形しやすく断面試料の作製に高度な技術を要する。本研究では TOF-SIMS・ラマン分光等を用いた横断的なデータ取得を目指して、マイクロームによる樹脂製品の断面試料作製技術の確立に取り組む。	

3D プリンタにおける造形精度の向上に関する研究 (1/1) 3D プリンタにおける造形精度の向上に関する研究 (1/1)		No. 3
研究機関	本部（技術支援部）	
研究の概要	レーザー粉末焼結法などの 3D プリンタによる造形は、熱により樹脂を溶融させながら造形するため、冷却による収縮により、造形後に造形物の変形が発生することがある。そこで本研究では、3D プリンタと 3D スキャナを用いて造形物の変形を測定し、造形時の配置や造形姿勢、サポート設計などの工夫により、変形を抑えられる条件を探索する。	

中山間部害獣駆除に伴う廃棄物の陶磁器への利用の検討 (1/1) 中山間部害獣駆除に伴う廃棄物の陶磁器への利用の検討 (1/1)		No. 4
研究機関	瀬戸窯業試験場	
研究の概要	本県中山間地域では、農産物の食害を防止するために捕獲、駆除したシカ、イノシシなどについて、食肉化し「ジビエ」としての利用が進んでいるが、食肉加工後の残渣の処理コストが活用のネックとなっている。透光性に優れた高級磁器「ポーンチャイナ」は牛骨灰を原料とすることから、食肉処理後の獣骨に着目し、ポーンチャイナ原料等の窯業資源としての利用を検討し、中山間地域の新たな物産開発の可能性を探索する。	

マグネシウム合金の分析方法の検討 (2/2) マグネシウム合金中希土類元素の定量分析方法の検討 (1/1)		No. 5
研究機関	産業技術センター	
研究の概要	マグネシウム合金は自動車軽量化を背景に需要の増加が見込まれているが、マグネシウム合金の含有元素の定量分析方法は未整備な部分がある。マグネシウム合金中の希土類元素は、JIS規格において、希土類元素を酸化物として重量を測る方法があるが、元素毎に定量分析する方法はない。本研究では、ICP発光分析法を用いて、マグネシウム合金中希土類元素を元素毎に定量分析する方法を検討する。	

脱炭素社会に向けた廃プラスチック資源の高度化に関する研究 (1/2) プラスチック廃材の複合化と力学特性の評価 (1/1)		No. 6
研究機関	産業技術センター	
研究の概要	近年、国内外で廃プラスチックの再利用が義務化されるなど、再生資源を取り巻く世界情勢は大きな転機を迎えている。廃材の再利用では、物性低下や成形安定性が懸念されており、材料特性や成形特性を把握する必要がある。本研究では、廃プラスチックや廃添加材など、オールリサイクル材を用いた射出成形を行い、廃材の調製条件や可塑化・射出条件が成形品の内部構造や力学特性に及ぼす影響を検討する。	

金属加工におけるAI活用に関する研究 (2/2) 機械学習による加工油製造物性予測 (1/1)		No. 7
研究機関	産業技術センター	
研究の概要	金属加工の分野では、切削や塑性加工の際に目的に応じた性能の加工油を使用している。加工油はベース油と添加剤の配合により製造されるが、試作や物性評価の繰り返しによるコストや工数増大が課題である。この課題の緩和に加工油の物性予測が効果的であると考え、予測技術へのAI活用を検討してきた。本研究では、機械学習による加工油の物性予測を行い、精度良く予測が可能な条件やデータの扱い方等を検討していく。	

化学的エッチングによる金属表面への微細テクスチャの創成と活用に関する研究 (1/2) 金型表面への微細テクスチャ創成と効果検証 (1/1)		No. 8
研究機関	産業技術センター	
研究の概要	金属同士が接触し、相対運動する部位には摩擦が生じる。摩擦は相対運動を阻害し、金属表面を損傷させるため、製品の使用時には効率低下、故障の要因に、製造時には精度の低下や不良の要因となる。本研究では摩擦改善のため、化学的エッチングにより金属表面にマイクロオーダーの微細テクスチャを創成し、テクスチャの基礎データ（形状、深さ、断面形状、摩擦特性等）を取得しつつ、塑性加工金型への応用を検討する。	

紙の高付加価値化技術の開発 (1/1) 紙の高付加価値化技術の開発 (1/1)		No. 9
研究機関	産業技術センター	
研究の概要	近年、国内各地で大きな災害が頻発している背景から、災害対策用のベッド、簡易トイレ、パーティション等としての段ボール製品の需要が増えている。災害発生時の環境を想定し、抗菌・抗ウィルス、脱臭などの衛生性の高い機能が付与された段ボール製品が望まれている。そこで本研究では、無機系の抗菌剤を用いて抗菌性を付与した段ボールシートを開発する。	

パルプモールドの新規処理法の開発 (2/3) 内添による不燃パルプモールドの開発 (1/1)		No. 10
研究機関	産業技術センター	
研究の概要	パルプモールドは主に卵パックや梱包材として使用される紙の成形品だが、その美粧性を活かして壁紙や天井材などの建築物内装材にも活用が見込まれている。しかし内装材には難燃性が求められ、設置場所によっては建築基準法に指定された「不燃」の非常に厳しい基準を満たす必要がある。本研究ではパルプモールドの製造工程中に難燃剤や無機繊維を添加するだけで、不燃基準に適合する製法を開発する。	

常温硬化樹脂の塗布処理による軟質針葉樹の表層硬質化 (1/1) 常温硬化樹脂の塗布処理による軟質針葉樹の表層硬質化 (1/1)		No. 11
研究機関	産業技術センター	
研究の概要	当センターでは木材表面からの液体浸透性を高めるレーザマイクロインサイジングを施した後、樹脂を塗布・硬化させて硬質な樹脂複合層を形成することで軟質針葉樹の表面硬度を大幅に向上する手法を開発した。しかし、既報の手法では硬化に熱処理が必要であり、急な硬化反応による美観低下が課題となっている。そこで本研究では硬化に熱処理が不要かつ急な硬化反応を抑制できる常温硬化樹脂による検討を試みる。	

表層防火処理による国産針葉樹材の不燃化 (1/1) 表層防火処理による国産針葉樹材の不燃化 (1/1)		No. 12
研究機関	産業技術センター	
研究の概要	建築物の内装材には規模や用途に応じて防火材料の使用が義務づけられ、内装木質化のための取組として木材への難燃剤の注入による防火木材の開発が広く行われている。一方、木材は個体や部位の違いが注入性に及ぼす影響が大きく、防火性能の不均一性に課題がある。本研究では国産針葉樹材を対象に、その表層に極微細な穴加工を施すことで不均質な注入性を改善しつつ、建築基準法における最上位の「不燃」性能の達成を試みる。	

自重補償ロボットシステムにおける慣性抑制とデジタルツイン活用の検討 (1/1) 自重補償ロボットシステムにおける慣性抑制とデジタルツイン活用の検討 (1/1)		No. 13
研究機関	産業技術センター	
研究の概要	人と同じ空間内で稼働する協働ロボットは、一般の産業用と比べて力と速度が抑えられることにより、実現できる作業が限られる。力の課題に対して提案した自重補償ロボットシステムについて、本研究では、速度の課題に対応するため、可搬重量を超えて扱えるようになった搬送物の慣性を抑制する制御を適用する。併せて、シミュレータ上でモデル化したデジタル環境を構築し、試行錯誤を伴う制御ゲインの決定の効率化を試みる。	

機械学習による異常検知技術の製造業における時系列データへの適用に関する研究 (1/1) 機械学習による異常検知技術の製造業における時系列データへの適用に関する研究 (1/1)		No. 14
研究機関	産業技術センター	
研究の概要	製造現場では、品質向上、生産性向上、予知保全などのため、音、振動などの時系列の数値データに対し、機械学習による異常検知技術を活用することが期待されている。本研究では、異常が起こると加工精度や工具寿命に影響のある加工工具について、加工時の振動データから異常検知の機械学習モデルを構築する過程を明らかにし、製造現場で機械学習による異常検知システムを構築、評価できる手法の確立を目指す。	

瓦用原料の調査研究 (3/3) 砂利排土の基礎性状 (1/1)		No. 15
研究機関	三河窯業試験場	
研究の概要	粘土瓦の品質の安定化につなげるため、粘土瓦の主要原料である三河粘土、山土及び砂利排土の調査研究を実施する。令和8年度は砂利排土を対象とし、化学組成、鉱物組成、粒度分布、可塑性について調べる。また、練土試料を作製し、乾燥性状及び焼成性状を把握する。過去調査した砂利排土の基礎性状との比較により化学組成等の変化を明らかにするとともに、業界へ情報提供し、製造条件の改善につなげる。	

画像による食品中の異物判別システムの検討 (1/1) 画像による食品中の異物判別システムの検討 (1/1)		No. 16
研究機関	食品工業技術センター	
研究の概要	持ち込まれた異物について当センターの技術相談指導の過程で得られた膨大な数の蓄積画像の中から類似したものを探し出すことができる画像検索システムの構築を目指す。AIでうまく判断できるのか、どの画像認識ソフトが適しているか等を検討する。さらに、由来の明らかな画像を用いてAIに学習させ、学習用データセットを作成してデータベースを構築し、学習に使用しなかった画像について異物判別が可能か検証する。	

米麴甘酒を用いたいろいろの評価 (1/1) 米麴甘酒を用いたいろいろの評価 (1/1)		No. 17
研究機関	食品工業技術センター	
研究の概要	砂糖の代わりに米麴甘酒を甘味料として用い、名古屋の伝統的な和菓子である米粉いろいろを試作する。米粉いろいろの砂糖を米麴甘酒に段階的に置き換えることで、食感や色がどのように変化していくかを評価し、米麴甘酒を用いたいろいろの製造条件を検討する。従来よりも栄養価が高く、健康志向に配慮したいろいろの開発を目指す。	

でんぷん分解性乳酸菌による小豆の共発酵 (1/1) でんぷん分解性乳酸菌による小豆の共発酵 (1/1)		No. 18
研究機関	食品工業技術センター	
研究の概要	乳酸菌を用いた発酵技術は、食品の栄養価や機能性を高める手法として注目されており、特にγ-アミノ酪酸（GABA）等の機能性成分の生成が期待されている。小豆を乳酸菌により共発酵させることで、従来の小豆にはない新たな機能性を付加した小豆発酵物を試作する。	

サステナビリティを考慮したモノづくりの推進 (1/2) CNF を利用した繊維への機能性付与 (1/1)		No. 19
研究機関	尾張繊維技術センター	
研究の概要	近年、サステナビリティに対応した開発が盛んに行われており、バイオマス由来原料であるセルロースナノファイバー（CNF）も、その機械物性や軽さ、流動性から工業材料から食品加工まで幅広く使用されている。繊維業界においても、CNF 活用の動きが見られており、本研究では、CNF 分散剤コートによる染色堅牢度への影響や糸への機能性付与および、これら加工条件について検討する。	

繊維製品の光退色抑制技術の開発 (1/2) 繊維の光退色抑制に向けた光源選定 (1/1)		No. 20
研究機関	尾張繊維技術センター	
研究の概要	繊維製品は、消費者の手に渡るまで様々な照明にさらされ、その照明が国の政策推進により、ここ数年で急速にLED化した。LED照明は一般的に安全なものと思われてきたが、繊維業界では、光源が切り替わった後、店頭での展示販売などで一部の生成り繊維製品が退色する事例が発生している。本研究は、各光源における暴露試験データを取得し、繊維の退色挙動への影響を把握することで、適切な光源選定を行うことを目標とする。	

繊維製品の欠陥検出 AI の精度向上及び推論機構の軽量化に関する研究 (2/3) 繊維製品の欠陥検出 AI の推論機構の軽量化に関する研究 (2/2)		No. 21
研究機関	尾張繊維技術センター	
研究の概要	これまでに開発した、AIを用いた検反モデルは、高精度だが実行にマシンパワーを要する。普及をすすめるために、メモリ容量や演算能力が限られるミドルスペックPCでも高精度で高速な推論できるようモデルの軽量化を行う。軽量化手法として通常32bitで扱う内部データを16bitや8bitに丸めて処理する量子化を検討する。	

環境負荷低減に向けた染色加工におけるファインバブルの応用 (2/2) 繊維製品の洗浄効果に関する研究 (1/1)		No. 22
研究機関／担当者	三河繊維技術センター	
研究の概要	染色加工工程は繊維産業の中でも環境負荷が大きく、SDGs達成に向けた取り組みが加速する中で、環境負荷を低減する新規技術の確立が期待されている。染色加工工程には各種洗浄工程も含まれており、その都度、薬剤の使用や昇温を行っている。本研究では、洗浄工程におけるファインバブルの有効性を検討し、染色加工工程における環境負荷低減を目指す。	

高速引張試験機を使用した衝撃特性評価 (2/2) 繊維材料の高速引張試験 (1/1)		No. 23
研究機関／担当者	三河繊維技術センター	
研究の概要	高速引張試験機は材料の瞬時の引張に対する応答を測定し、実使用条件に近い状況での材料特性を評価できる。しかし、繊維材料では試料の取り扱いや試験方法が未確立であり、例えば、単糸か束、撚りの有無、糸の張り具合、初荷重、チャックの滑りや抜け対策等、課題が多い。本研究は「繊維の高速引張試験」の確立を目指し、課題を抽出・解決する。	

(3) 企業の提案による共同研究

企業等が共同研究開発テーマを当センターに提案し、採択したテーマについて共同研究を実施する。

企業単独では解決できない技術的課題を当センターが蓄積した技術的ノウハウを提供することにより解決する。

(4) 新たな知的財産の創出、特許や技術の利活用

新たな知財を創出するとともに、保有する特許や開発した技術の利活用を図る。

3. 技術指導の充実

(1) 重点研究プロジェクト成果活用プラザの設置と運用

重点研究プロジェクト成果活用プラザを設置し、事業終了後における重点プロジェクト参加企業の事業化支援と研究成果の地域企業への技術移転を図る。

(2) 高度な計測分析機器（シンクロトロン光含む）の活用

① 高度計測分析機器の活用

高度計測分析機器を活用した先端技術に関する研究（利用促進研究）を実施し、県内企業等への高度計測分析機器の利用を図る。※研究の概要は、経常研究（No. 1～No. 3）をご覧ください。

② 高度計測機器とシンクロトロン光の相互有効活用の実施

高度計測分析機器とシンクロトロン光の相互利用研究を実施して活用事例を公表していく。

※研究の概要は、特別課題研究（No. 1、No. 2）をご覧ください。

※シンクロトロン光計測の活用

県内中小企業が共通して抱える技術課題に関するテーマを設け、あいちシンクロトロン光センターを活用して評価・分析を行う。得られた結果は新たな評価方法として県内中小企業に示し、技術課題の解決に向けて指導する。

(3) トライアルコアの運用

各トライアルコア等の目的に沿う開発に取り組む地域中小企業に対し、試作品の特性評価、技術相談・指導、情報提供、材料研究など、総合的な支援を行う。

※トライアルコアについて

次世代産業を支える柱として大きな発展が期待される燃料電池やプラズマを応用した表面改質などの開発に取り組む中小企業に対し、試作品の特性評価、技術相談・指導、情報提供を行う。さらに材料研究の支援拠点に加え産業デザインなど総合的な支援を行う。

① 燃料電池技術の支援（燃料電池トライアルコア）

新エネルギーとして期待が大きい燃料電池の開発支援拠点として開設した「燃料電池トライアルコア」の燃料電池評価システム装置を用いて、中小企業等が燃料電池向けに試作した部品や素材の特性評価や技術指導等を行うことにより、中小企業の優れた技術を発掘し次世代産業を育成する。

② 表面改質技術の支援（材料表面改質トライアルコア）

比表面積計などを用いた表面改質に関する研究開発、試作、試作品の分析評価を行う開発支援拠点として開設した「材料表面改質トライアルコア」で、自動車・工作機械や航空機産業を支える中小企業等に、技術指導等を通じてナノテクノロジーを応用したモノづくり支援を行う。

③ 産業デザインの支援（産業デザイントライアルコア）

従来から行ってきた産業デザイン相談に加え、レーザー粉末焼結造形装置、3次元プリンター、モデリング装置、CAD/CAM 装置により、産業デザインを意識したモノづくり支援を行う。

④ 繊維強化複合材料開発の支援（繊維強化複合材料トライアルコア）

繊維強化複合材料開発に取り組む地域中小企業に対し、技術相談・指導、情報提供、試作・評価支援などにより総合的なモノづくり支援を行う。

⑤ 脱炭素燃料工業炉を活用した研究開発の支援（脱炭素燃料工業炉トライアルコア）

脱炭素燃料に興味がある中小企業に対して、水素ガスを燃料としたバーナーを備える工業炉を用いた焼成試験、焼成品の評価試験を実施し、技術相談・指導、情報提供などにより総合的なモノづくり支援を行う。

(4) 釉薬テストピース・データベースの運用

釉薬データベースの活用方法に関するセミナーを開催するとともに、釉薬テストピース・データベースを活用した、企業における陶磁器製品や釉薬の開発を支援する。

(5) 産業競争力強化減税基金（「減税基金」）による支援

減税基金を原資とする「新あいち創造研究開発補助金」により、今後の成長が期待される分野において、企業等が行う研究開発や実証試験への支援を行う。

(6) 技術課題解決のための所内及び現場での技術相談・指導の実施

技術相談・指導の実施

中小企業における、工程の改善、加工技術の向上、製品の品質管理、生産管理技術の向上などを図るため、技術相談・指導を実施する。

(単位：件)

機 関 名	技術指導				技術相談	
	現場指導		所内指導		令和8年度 計画	令和7年度 計画
	令和8年度 計画	令和7年度 計画	令和8年度 計画	令和7年度 計画		
技術支援部	90	90	750	750	3,030	2,070
瀬戸窯業試験場	240	240	650	650	1,620	1,040
産業技術センター	560	560	5,920	5,920	12,820	10,180
常滑窯業試験場	110	110	350	350	700	630
三河窯業試験場	110	110	350	350	700	630
食品工業技術センター	420	420	2,580	2,580	3,920	3,350
尾張繊維技術センター	230	230	1,450	1,450	4,300	3,600
三河繊維技術センター	240	240	950	950	3,910	3,500
計	2,000	2,000	13,000	13,000	31,000	25,000

※産業技術センターに設置している「総合技術支援・人材育成室」が、総合相談窓口として、各センターの有する技術シーズを効率よく展開し、中小企業の技術課題の解決を支援する。

4. 依頼業務

企業からの依頼により、試験・分析の実施及び器具、会議室等の貸付を行い、県内の中小企業の試験室としての役割を果たす。また、企業からの依頼を受けての研究も実施する。

(1) 製品・原材料の分析・試験等

① 製品・原材料の分析・試験等

(単位：件)

区 分		令和8年度計画	令和7年度計画
分 析	化 学 分 析	1,265	1,457
	機 器 分 析	5,147	5,201
一般試験	物 性 試 験	2,121	2,047
	材 料 試 験	90,519	96,784
	そ の 他	3,359	3,649
窯 業 に 関 す る 試 験		101	98
機 械 金 属 工 業 に 関 す る 試 験		22,457	18,890
木 材 工 業 に 関 す る 試 験		1,234	1,337
包 装 に 関 す る 試 験		2,759	2,728
食 品 工 業 に 関 す る 試 験		1,182	1,222
繊 維 工 業 に 関 す る 試 験		4,635	4,923
工業デザイン及び機械器具の設計		3	2
試 料 調 製		3,103	3,268
材 料 加 工		67	52
計		137,952	141,658

② 文 書

(単位：件)

区 分	令和8年度計画	令和7年度計画
成績書若しくは鑑定書の副本 又はこれらの翻訳書の作成	44	43
文献複写	167	231

(2) 機械器具類の貸付

企業からの依頼により、次のとおり機械器具を貸し付ける。

(単位：件)

区 分	令和8年度計画	令和7年度計画
工作機械類	39	39
窯業機械器具類	686	686
食品加工機械器具類	60	60
繊維関係機械類	1,212	1,212
ベンチャー研究開発工房機器	470	470
計	2,467	2,467

※機器一覧については、こちらをご覧ください。(https://www.aichi-inst.jp/analytical/machine_rental/)

(3) 会議室等の貸館

技術開発交流センターホール、会議室等を企業、団体に貸し、会議や講習会、講演会等の用に供する。

室 名	規 模 等
交 流 ホ ー ル	定 員 273 名
交 流 会 議 室	定 員 80 名
研 修 室 1	定 員 100 名
研 修 室 2	定 員 60 名
研 修 室 3	定 員 40 名
共 同 研 究 室 1～5	各 室 61 m ²

※技術開発交流センターについては、こちらをご覧ください。(https://www.aichi-inst.jp/kouryu/)

(4) 受託研究の実施

企業からの依頼により、受託研究を実施する。

(単位：件)

区 分	令和8年度計画	令和7年度計画
受託研究件数	2	3

5. 人材育成への支援

(1) 企業ニーズに応じた技術研修の実施

中小企業の技術力向上、事業転換、新分野進出及び自社製品の市場化を支援するため、技術人材育成講座や次世代産業技術習得研修等を実施する。

技術人材育成講座	実施機関： 産業技術センター（3）、尾張繊維技術センター（1）
C A T I A 研修	実施機関： 産業技術センター（2）
次世代計測加工技術者養成研修	実施機関： 産業技術センター（3）
食品入門講座	実施機関： 食品工業技術センター（1）

（ ）は、計画件数。

(2) 研修生の受入

中小企業などの技術者を対象に研修生として受け入れ、工業技術の修得あるいは研究のための指導を行い、技術者の養成を図る。

(3) 業界団体と連携した研修の実施、講師派遣

業界団体、大学等との協働により、中小企業における技術人材に対し、必要な知識・スキルを実践的に取得させるため、座学と実習からなる人材育成研修を行う。また、人材育成を支援するため講師として職員を派遣する。

6. 技術開発、技術交流への支援

特定の技術分野での課題解決のための研究会等の開催

当センターの試験研究成果の発表及び技術の進展に伴う新しい情報の普及を図るために、研究会を開催する。

研究会等 19回（令和7年度計画 31回）

（）内は開催予定人数

研究会名	担当機関
■技術支援会議（20人）	瀬戸窯業試験場
■技術支援会議（4人） ■包装技術研究会（80人）	産業技術センター
■技術支援会議（4人） ■常滑焼商品開発研究会（2回）（14人）	常滑窯業試験場
■技術支援会議（6人） ■製品評価技術研究会（3回）（40人）	三河窯業試験場
■技術支援会議（30人） ■包装食品技術協会との共催による研究会（20人）	食品工業技術センター
■技術支援会議（10人） ■テキスタイル研究会（2回）（10人） ■加工技術研究会（2回）（10人）	尾張繊維技術センター
■技術支援会議（10人） ■産業資材研究会（10人）	三河繊維技術センター

7. 情報の収集・発信

(1) 講習会等の開催

当センターの試験研究成果の発表及び技術の進展に伴う新しい情報の普及を図るため、講習・講演会を開催する。

講習会・講演会等 44 回（令和 7 年度計画 42 回）

（ ）内は開催予定人数

講習会・講演会名	担当機関
■技術講習会（3回）（240 人） ■成果普及講習会（80 人） ■シンクロ入門講習会（30 人） ■シンクロ成果報告会（100 人） ■重点研究プロジェクト IV期普及セミナー（4 回）（120 人）	技術支援部
■総合技術支援セミナー（40 人） ■研究成果普及講習会（40 人） ■窯業技術ステップアップセミナー（20 人）	瀬戸窯業試験場
■総合技術支援セミナー（3 回）（200 人） ■トライアルコア講演会（2 回）（60 人） ■先端技術セミナー（DX）（30 人） ■重点研究プロジェクト IV期普及セミナー（3 回）（150 人）	産業技術センター
■とこなめ焼技術協議会との共催による講演会（15 人） ■研究成果普及講習会（30 人）	常滑窯業試験場
■総合技術支援セミナー（20 人） ■技術講演会（20 人）	三河窯業試験場
■総合技術支援セミナー（50 人） ■研究成果普及講習会（50 人） ■酒造技術研修会（15 人） ■漬物技術研究会（60 人） ■包装食品技術協会との共催による講習会（4 回）（120 人）	食品工業技術センター
■総合技術支援セミナー（50 人） ■トライアルコア講演会（50 人） ■新規採用者向け繊維セミナー（40 人） ■研究成果普及講習会（50 人） ■重点研究プロジェクト IV期普及セミナー（50 人）	尾張繊維技術センター
■総合技術支援セミナー（30 人） ■新規採用者向け繊維セミナー（30 人） ■研究成果普及講習会（30 人） ■繊維講演会（30 人） ■重点研究プロジェクト IV期普及セミナー（30 人）	三河繊維技術センター

5.（1）企業ニーズに応じた技術研修で掲載するものを除く。

(2) 研究報告、広報資料や展示会によるセンター活動の報告

当センターの研究報告、広報誌やインターネット等を活用して情報発信を行う。

① 研究報告の作成、発行

名 称	発 行 日
あいち産業科学技術総合センター研究報告	毎 年

② 広報誌等の刊行物

名 称	発 行 日
あいち産業科学技術総合センターニュース	毎 月
食品工業技術センターニュース	毎 月
その他（パンフレット、各種技術資料、講習・講演会の資料など）	随 時

③ インターネット等による情報の提供

名 称	発 行 日
あいち産業科学技術総合センター（ＨＰ）	
記者発表資料、更新情報、講習会・講演会情報 等	随 時
試験用機器情報、技術振興施策に関する情報 等	随 時
研究報告	毎 年
あいち産業科学技術総合センターニュース	毎 月
〃 メールマガジン	毎月・随時
食品工業技術センターニュース	毎 月
技術ナビ（あいち産業振興機構ＨＰ）	毎 月
技術の広場（あいち産業振興機構ＨＰ）	奇 数 月
技術のプラザ（中部経済新聞社）	偶 数 月
知の拠点あいちに関する情報（知の拠点あいちＨＰ）	随 時
その他	随 時

④ 展示会等への出展・施設見学・ＰＲ

新産業の創出・育成に積極的に取り組むため、地域中小企業などが開発した新製品・新技術の展示を行うことによって企業を支援するとともに、工業技術に関する展示会等に試験研究成果としての試作品及び施策の案内等を出品して普及に努める。

企業の方から県民の方まで幅広く当センターの活動を理解してもらえよう、施設や計測機器などを紹介する施設見学会を開催する。

8. 科学技術の普及啓発

将来の理系技術人材の醸成のため、こども科学教室や施設見学を開催し、モノづくりの基盤となる科学技術への興味・関心を促す。

9. 職員の資質向上

職員の資質向上を図るため、学会等へ職員を派遣し、各種研修へ参加するとともに、客員研究員から最新、先端技術の指導を実施する。

① 高度研究活動推進

当センターの研究活動を強力に推進するために学会等に職員を派遣する。

- ・派遣件数 12件（令和7年度計画：12件）

② 客員研究員による研究指導事業

先端技術に関する研究課題等について指導・助言及び最新技術情報の提供を受ける。

- ・指導回数 延べ38回（令和7年度計画：延べ38回）

③ 職員能力開発事業

研究職員研修実施要領に基づく研修の実施。

- ・高度計測分析機器研修：「知の拠点あいち」の高度計測分析機器に係る研修を実施する。
- ・新技術育成研修：新技術の調査、学会誌投稿のための調査、依頼試験の品質向上へ向けた調査等を実施する。

公設試験研究機関研究職員研修（（独）中小企業基盤整備機構）の受講。

- ・受講者 2名（令和7年度計画：2名）

10. 試験、研究用機器の更新整備

当センターの機能維持強化のため、試験、研究用機器の更新整備を行う。

機 器 名		数 量	使 用 目 的
技術支援部	飛行時間型二次イオン質量分析装置	1 式	極表面にある有機、無機化合物を高感度に評価できる装置で、様々な産業分野における表面微量付着物の分析や、高分子の構造解析に使用する。
瀬戸窯業試験場	真空加圧焼結炉（※1）	1 式	セラミックス等を真空～加圧（窒素、アルゴン）雰囲気で焼成する装置
産業技術センター	ICP発光分光分析装置（※1）	1 式	無機元素の定性・定量分析を行う装置
	精密万能試験機	1 式	フィルム、ゴムなどの強度や弾性率などの力学特性を測定する装置
	電気化学測定装置	1 式	金属材料やその表面処理皮膜の電気化学的特性を測定し、材料の耐食性などを調べる。
	湿式ベルト研磨機	1 式	金属材料の研磨やバリ取りを行う装置。冷却水を使用し、研磨ベルトを湿らせながら作業を行う。
食品工業技術センター	デジタルマイクロスコープ（※2）	1 式	麴の表面構造や竹粉末の繊維の状態など、微小物の拡大観察を行う。
三河繊維技術センター	キャピラリレオメータ（※1）	1 式	プラスチック材料などの高温下での流動特性を評価する装置
	イオンコーター	1 式	電子顕微鏡試料の表面に金などの金属材料をコーティングして、導電性を付与する装置

（※1）JKA補助事業

（※2）産業競争力強化減税基金事業費

Ⅲ 予算概要

1. 歳入

(単位：千円)

区 分	令和8年度当初	令和7年度当初	説 明
【あいち産業科学技術総合センター費に係る歳入】			
使用料及び手数料	556,787	599,873	
（建物使用料）	(210,296)	(252,515)	
（依頼試験手数料）	(346,491)	(347,358)	分析試験等 138,165 件
財産収入	7,410	7,418	
（土地貸付収入）	(3,731)	(3,731)	（公財）尾州ファッションデザインセンター
（物品貸付収入）	(1,160)	(1,160)	機械器具貸付 2,467 件
（物品等売払収入）	(1,650)	(1,650)	生產品・試作品・デザインの払下げ等
（建物貸付収入）	(869)	(877)	自動販売機の設置等
諸収入	130,388	130,388	
（JKA）	(47,848)	(44,132)	補助率 2/3
（雑入）	(1,069)	(1,256)	非常勤職員等雇用保険本人負担分等
（受託事業収入）	(85,000)	(85,000)	
県債	1,560,000	1,161,000	
一般財源	2,423,838	2,295,675	
小 計	4,678,423	4,194,354	
【商工業振興費に係る歳入】			
使用料及び手数料（依頼試験手数料）	3,554	3,554	脱炭素燃料工業炉試験
繰入金	296	252	
一般財源	35,084	37,434	
小 計	38,934	41,240	
計	4,717,357	4,235,594	

2. 歳出

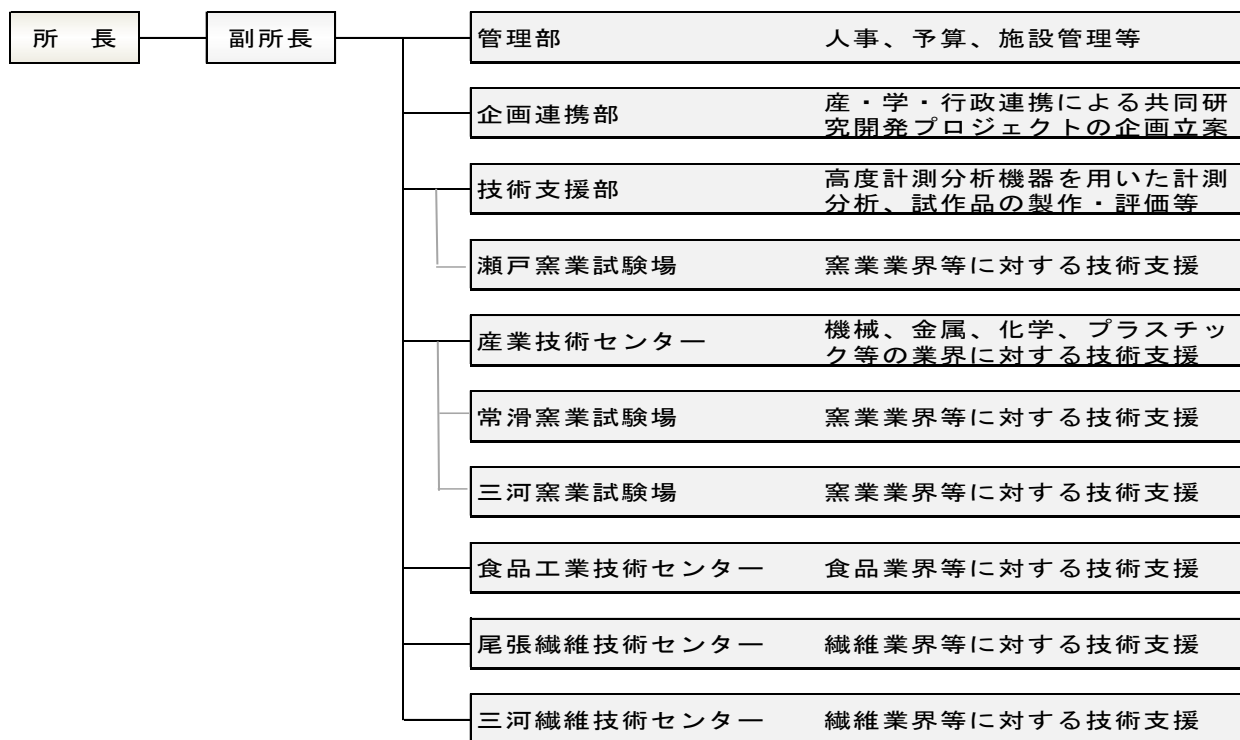
(単位：千円)

区 分	令和8年度当初	令和7年度当初	説 明
【あいち産業科学技術総合センター費】			
職員給与	1,288,673	1,254,302	正規職員 160 名 再任用職員(短時間) 3 名 一般職非常勤職員 48 名 施設維持管理
報酬等	210,662	202,162	
運営費	731,630	709,485	
(本部運営費)	(625,052)	(635,391)	
(支部運営費)	(106,578)	(74,094)	
研究開発推進費	510,420	517,131	
(試験研究指導費)	(423,179)	(428,626)	
((試験研究費))	((132,410))	((103,612))	技術支援部
((試験研究指導費))	((290,769))	((325,014))	
センター事業調整企画連携推進費	3,026	3,029	各センターとの連絡調整を行うとともに、事業の対外的な資料作成、研究の年次報告会を開催 総合技術支援のための関係機関や国等との調整の実施 新規の重点研究に向けた産学行政連携の研究プロジェクトを推進
イノベーション創出開発プロジェクト推進費	1,090	1,091	
イノベーション成果移転プロジェクト推進費	7,241	7,045	国や県のプロジェクトで実施した研究成果などの地域企業、大学、研究機関への波及の推進 イノベーション創出の専門人材であるマネージャー等の育成、確保、流動化の推進
イノベーション創出人材プロジェクト推進費	4,254	4,256	
地域企業技術力強化プロジェクト推進費	273,397	307,832	産業基盤を支える中小企業等の高品質化の促進 地域一体型の製品化等支援
開発型企業重点的支援プロジェクト推進費	1,761	1,761	
(特別課題研究費)	(87,241)	(88,505)	特別課題研究
次世代計測加工技術者養成事業費	1,800	2,000	
施設設備整備費	1,615,763	1,481,532	
(施設整備費)	(49,363)	(56,158)	
(長寿命化推進事業費)	(1,374,734)	(1,391,626)	長寿命化工事等
(知の拠点あいち機器更新整備事業費)	(191,666)	(33,748)	
技術開発交流センター管理運営事業費	29,933	27,742	貸館
小 計	4,388,881	4,194,354	
【商工業振興費】			
産業競争力強化減税基金事業費	296	252	新 あ い ち 推 進 事 業 費
知の拠点あいち推進費	19,668	20,274	
(重点研究プロジェクト推進事業費)	(14,325)	(14,217)	重点プロ(Ⅳ期)フォローアップ事業費 シンクロトロン光利用促進事業費
(シンクロトロン光センター産業利用促進費)	(5,343)	(5,343)	
知的財産戦略活用促進事業費	56	56	知的財産相談・啓発支援事業費
水素・アンモニア工業炉推進事業費	17,660	19,420	脱炭素燃料工業試験炉利用支援事業費 脱炭素燃料工業炉利活用研究費
実証研究エリア管理運営事業費	1,194	1,238	エ リ ア 維 持 管 理 費
小 計	38,934	41,240	
計	4,717,357	4,235,594	

IV 参考資料

1. 組織図及び定数

(1) 組織図



(2) 定数

(人)

	本部 (瀬戸窯業含む)	産技	常滑 窯業	三河 窯業	食品 工業	尾張 繊維	三河 繊維	計
定 数	39	54	5	4	24	18	16	160
うち研究職	31	48	4	4	21	15	14	137

2. 土地及び建物

(1) 土地

	所 在 地	面 積
あいち産業科学技術総合センター (本 部)	豊田市八草町秋合1267-1	111,274 m ²
旧 瀬 戸 窯 業 試 験 場	瀬戸市南山口町537	29,692 m ²
産 業 技 術 セ ン タ ー	刈谷市恩田町1-157-1	33,056 m ²
常 滑 窯 業 試 験 場	常滑市大曾町4-50	10,478 m ²
三 河 窯 業 試 験 場	碧南市六軒町2-15	3,602 m ²
食 品 工 業 技 術 セ ン タ ー	名古屋市西区新福寺町2-1-1	12,943 m ²
尾 張 繊 維 技 術 セ ン タ ー	一宮市大和町馬引字宮浦35	13,604 m ²
三 河 繊 維 技 術 セ ン タ ー	蒲郡市大塚町伊賀久保109	13,193 m ²
小 計		227,842 m ²
技術開発交流センター	産業技術センター敷地内	— m ²
合 計		227,842 m ²

(2) 建物

	構 造	面 積
あいち産業科学技術総合センター（本 部）	鉄筋コンクリート造 3階建	14,896 m ²
瀬 戸 窯 業 試 験 場 別 棟	木造 平家建	458 m ²
旧 瀬 戸 窯 業 試 験 場	鉄骨鉄筋コンクリート造 2階建	3,186 m ²
産 業 技 術 セ ン タ ー 一	鉄骨鉄筋コンクリート造 5階建	12,606 m ²
常 滑 窯 業 試 験 場	鉄骨鉄筋コンクリート造 3階建	3,437 m ²
三 河 窯 業 試 験 場	鉄骨鉄筋コンクリート造 2階建	1,250 m ²
食 品 工 業 技 術 セ ン タ ー 一	鉄骨鉄筋コンクリート造 3階建	7,845 m ²
尾 張 織 維 技 術 セ ン タ ー 一	鉄骨鉄筋コンクリート造 3階建	6,356 m ²
三 河 織 維 技 術 セ ン タ ー 一	鉄骨鉄筋コンクリート造 2階建	4,148 m ²
小 計		54,182. m ²
技術開発交流センター	鉄骨鉄筋コンクリート造 2階建	3,112 m ²
合 計		57,294 m ²

<あいち産業科学技術総合センター>



令和8年度
あいち産業科学技術総合センター事業計画書
令和8年3月発行

あいち産業科学技術総合センター
豊田市八草町秋合 1267-1
電 話 (0561)-76-8301
F A X (0561)-76-8304
<https://www.aichi-inst.jp/>